

江戸川大学 学報

江戸川短期大学

- 目次 -

関係法令等	1
学内規程	2
主要日程	3
諸報	5
決算報告	10
役職者紹介	13



江戸川ウォークに参加した学生(21kmの道のりを歩ききろうと握手)

関係法令等

【法律】

- 私立学校法の一部を改正する法律(法律第42号)(文部科学省)
平成16年5月12日交付、平成17年4月1日施行
- 学校教育法等の一部を改正する法律(法律第49号)(文部科学省)
平成16年5月21日交付、平成17年4月1日一部を除き施行
- 構造改革特別区域法の一部を改正する法律(法律第60号)(内閣官房)
平成16年5月28日交付、平成16年10月1日施行
- 障害者基本法の一部を改正する法律(法律第80号)
平成16年6月4日交付、一部を除き施行
- コンテンツの創造、保護及び活用の促進に関する法律(法律第81号)(内閣官房)
平成16年6月4日交付、一部を除き施行
- 私立学校教職員共済法等の一部を改正する法律(法律第131号)(文部科学省)
平成16年6月23日交付、一部を除き平成16年10月1日施行

【政令】

- 文部科学省組織令の一部を改正する政令(政令第128号)
平成16年4月1日交付、施行
- 学校保健法施行令の一部を改正する政令(政令第142号)
平成16年4月1日交付、施行

【省令】

- 教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令(文部科学省令第29号)
平成16年4月7日交付、一部を除き施行
- 文部科学省所管補助金等の申請書等に係る電磁的記録及び電磁的方法を定める省令(文部科学省令第30号)
平成16年4月15日交付、施行
- 教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令(文部科学省第31号)
平成16年4月30日交付、平成16年7月1日施行
- 文部科学省関係構造改革特別区域法第2条第3項に規定する省令の特例に関する措置及びその適用を受ける特定事業を定める省令の一部を改正する省令(文部科学省第32号)
平成16年4月30日交付、平成16年5月1日施行
- 文部科学省関係構造改革特別区域法施行規則の一部を改正する省令(文部科学省第33号)
平成16年4月30日交付、平成16年5月1日施行

【告示】

- 我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程を定める件の一部を改正する件(文部科学省告示第82号)
平成16年4月1日交付

私立学校法の一部を改正する法律(平成17年4月1日施行)について

趣旨は、学校法人が規制緩和の環境としての株式会社やNPO法人の教育分野参入などといった近年の急激な社会状況の変化に適切に対応し、様々な課題に対して主体的、機動的に対応していくための体制を強化するとともに、各都道府県の実情に即した私立学校審議会が行えるよう、私立学校審議会の構成の見直し等に係る法整備を行うものである。

1. 学校法人における管理運営機能の強化

(1) 理事制度の改善

学校法人の業務に関する決定機関として理事会を置く。
代表権は理事長が有する。
理事の任期、選任・解任手続等を各

学校法人の寄附行為で定める。

理事のうち少なくとも1名は、当該学校法人の役員又は職員でないものを選任する。

(2) 監事制度の改善

監事の職務に監査報告書の作成並びに理事会及び評議員会への提出を加える。

監事のうち少なくとも1名は、当該学校法人の役員又は職員でないものを選任する。

監事は評議員会の同意を得て理事長が選任し、解任手続、任期については各学校法人の寄附行為により定める。

監事は、評議員と兼職してはならない。

(3) 評議員制度の改善

理事長は、毎年度、事業計画及び事業の状況を評議員会に報告する。

2. 財務情報の公開

学校法人は、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書等を据え置き、当該学校法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、閲覧に供しなければならない。

3. 私立学校審議会の構成の見直し

私立学校審議会の委員の資格、構成割合、推薦手続等を詳細に定めている現行規定を見直し、これらを各都道府県の判断に委ねる。

(引用 平成16年5月19日付教育学術新聞)

学 内 規 程

江戸川大学規程等制定

- 江戸川大学後援名義の使用許可に関する要項の制定(16.6.1施行)
- 総合情報図書館運営委員会規程の廃止・制定(16.6.19施行)

[内容：組織の改組に伴う全面改正]

江戸川大学規程等改正

- 江戸川大学学則の改正(16.6.1施行)
- [内容：入学資格の一部改正]

江戸川大学・江戸川短期大学規程等改正

- 総合情報図書館規程の改正(16.6.19施行)
[図書館組織の改組及び業務外部委託化に伴うもの]
- 総合情報図書館利用規程の改正(16.6.19施行)
[図書館の業務外部委託化に伴うもの]

【大 学】

主 要 日 程

【短 大】

7月 3日(土) A0入試相談会, 大学開放講座
 7月 7日(水) 前期授業終了日
 7月 8日(木) 補講(～10)
 7月12日(月) 定期試験(～17)
 7月17日(土) A0入試相談会
 7月19日(月) 海の日
 7月20日(火) 総括講義期間(～26)
 7月21日(水) 教授会
 7月27日(火) 前期集中講義(～31)
 7月28日(水) オープンキャンパス
 8月13日(金) 事務局閉鎖(～16)
 8月20日(土) 前期成績提出〆切、追試許可者発表
 8月23日(月) 追試(～25)
 8月25日(水) オープンキャンパス
 8月28日(土) 追試成績〆切、AU海外研修(～9/17)
 8月29日(日) NZ海外研修(～9/18)
 8月30日(月) NZ海外研修(～9/19)
 9月11日(土) A0入試相談会
 9月13日(月) 後期集中講義(～17)
 9月20日(月) 敬老の日
 9月22日(水) 教授会
 9月23日(木) 秋分の日
 9月24日(金) 後期授業開始
 9月25日(土) A0入試相談会
 9月26日(日) センター試行試験

7月 5日(月) 前期定期試験時間割・課題発表
 7月 8日(木) 教授会
 7月17日(土) 前期授業終了, A0入試相談会
 7月19日(月) 海の日
 7月20日(火) 前期定期試験(～26)
 7月27日(火) 夏期休業開始
 7月31日(土) オープンキャンパス
 8月 2日(月) 夏季体験授業(～3)
 8月 6日(金) 前期定期試験成績評価採点簿提出締切
 8月13日(金) 事務局閉鎖(～16)
 8月20日(金) 前期定期試験追再試許可者発表
 8月25日(水) 前期追再試験(～27)
 8月28日(土) オープンキャンパス
 8月30日(月) 英海外研修(～9/18)
 9月 3日(金) 前期追再試験成績評価採点簿提出締切
 9月 9日(木) 教授会
 9月18日(土) A0入試相談会
 9月20日(月) 敬老の日
 9月23日(木) 秋分の日
 9月24日(金) 後期授業開始
 9月25日(土) A0入試相談会
 9月27日(月) 後期履修登録変更(～29),
 教科書販売(～10/8)

平成16年度江戸川大学入学式学長告辞(平成16年4月3日)

本日は好天に恵まれて、入学式のシンボルと言われる桜も今日までかろうじて残っている大変うれしい日でございます。多数の



在生に出迎えられる新入生たち

ご来賓の皆さま並びに保護者の皆さまをお迎えしまして、入学式を行えることは心から感謝したいと思います。

さて、入学生諸君、今日から諸君は希望をもって入学されたと思いますが、まず初めに大学ということはどういうところか、皆さん方が今まで学んでこられた中学、高校とはどこが違うかということからお話ししようと思います。

中学、高校までの教育というのは、皆さんご存知のとおり政府が決めました学習指導要領に従っておりまして、それに従って教科書が作られ、またその教科書に基づいて授業が行われます。したがって、それぞれの先生によって、あるいは学校によって内容に違いはあるかもしれませんが、大筋においては決められたことを教えるという方針になっております。この点が大学と全く違うところであります。

大学というのは、ある程度制約はありますけれども、それぞれの先生方は講義や演習において自由にご自分の考え方に従って教育をすることができます。また、高校以下でも、ある程度選択ができたと思いますが、学生諸君はそれぞれの先生方のどういう授業をとって、

どう選択していくかという自由度もはるかに高いと思います。必修科目もありますけれども、大変自由な選択ができるようになって

おります。このことは、どういうものを学びたいか、大学において諸君が何を求めているのかということがはっきりしていないと大学生活というものは充実しないと思います。もちろん、初めからある目的を決めている人もおられるでしょうし、また目的を自ら探している人もあると思います。自ら求めるものを探しながら、勉強、学問をしていくことが大学の特徴だと思えます。

私ども大学は、諸君が求めるものに応えられるような教育をしたい、これを第一に考えております。言い換えれば、皆さんの求めているものに応えるというのが本学の大きな教育の目標でございます。これにともなって、この大学では少人数教育というものを大変重視しております。1年生に入りますと、10人くらいの単位で基礎ゼミというのを行います。これは一人の先生が10人くらいの学生を相手にして基礎ゼミを行いまして、それから3



太田次郎学長

年、4年になりますと卒論ゼミというので、やはり10人単位のゼミを行っております。この少人数教育、これによって一人一人の学生の個性を生かして、それぞれの学生の求めているものに答えられる教育をしたい、少人数教育をしたいというのが私も大学の大きな目標でありまして、これは大規模な大学では行い得ないことだと私は思っております。そういう意味で、本学は少人数できめの細かい教育をしたい、これを目標としておりますし、各先生方もこれにお応えいただけると信じております。

そして、大学の間に、ぜひ体験してほしいことは、もちろん色々なことはありますけれども、一番大きなことは、「知ることの喜び」、「知の喜び」ということを味わってほしい。自分が自ら求めてあることを知りたいと思ひ、学びたいと思ったときに、そのことが分かりますと、目から鱗が落ちたという表現があり

ますけれども、なんとなく自分の目の前の世界が開けたような感じがすることがあります。これを私が「知の喜び」と呼んでいるんですけども、この喜びを多く味わうことが実は大学生生活を充実させることだと思います。何と申しまして、大学においては知ることの喜びというものを開拓するように、それには自ら積極的に学ぶ姿勢が大切であると思います。このことを特に強調しておきたいと思ひます。今年からスポーツビジネスの専攻コースを設けました。このコースにおいても、単に私ども大学があるスポーツで全国制覇することを望んでいるわけではありません、スポーツを通して人間性を養っていききたい。これが一つの大きな目的であります。今見ますと、多くの大学で学生が大学にいる時間が割合短くて、大学に来ると与えられた授業だけさっと聞いて、さっさと帰ってアルバイトしているという現状が多いように思ひますが、私ども

としてはスポーツや、学問、その他クラブ活動などにおいて、できるだけ大学にいる時間を多くしてもらいたい。そして、自分が何を求めているか自ら積極的に探求していく、そういう学生が育つことを心から希望しています。諸君の大学生活が充実して、良い生活を送れることを期待して告辞と致します。



新入生を出迎える在学生たち

平成16年度江戸川短期大学入学式学長告辞(平成16年4月4日)

江戸川短期大学第二十回の入学式を挙げるに当たりましてご来賓各位および、多数の保護者の方々のご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。また二十年目の記念すべき年にご入学なさった一六二名の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

本学の創立は昭和六十年です。この地は千葉県流山市駒木にありますことから駒木キャンパスと呼ばれております。キャンパスには本学、江戸川大学、江戸川大学総合福祉専門学校の校舎が建てられ、学生は相互に、自由に往き来しつつ活発に活動しております

沿革を簡単に申し上げますと、昭和六年に東京都江戸川区に創設され、翌七年に江戸川の名称を冠するようになりました。爾来七十年の伝統を有する学園となっております。太平洋戦争後の学制改革により現在の江戸川学園となりました。理事長の木内きぬめ先生は学園発展の基礎を固めた方であり、その功績を記念して本学図書館棟には「木内きぬめメモリアルホール」が設けられております。また先生は教育にお心を傾けられる傍ら、歌を詠まれました。

あかしやの花散る道を子等とゆく
若きに似たるはなやぎもちて

これは北軽井沢にある江戸川学園の山荘に在って詠んだものだそうですが、いかにも生徒を愛し、共に伸びて行こうとする教育者らしい人柄を偲ばせております。ご詠草は歌碑となり江戸川女子高等学校構内に建てられ、平成六年に駒木キャンパスの正門近く、池の辺に移設されました。ご入学に当たり、これらを知っておかれることも、意義あることかと考えております。

なお関連して本学の「教育の目的」について若干触れておきたいと思ひます。まず「正確な知識に裏付けられた豊かな教養」の修得であります。教養とは「生活の実際の場面に適応するための幅広い知識」が基礎となります。それを通して一層「思慮深く、人間味の豊かな」人となり、各人の将来は元より「社会の発展に貢献できる生涯」を築いていただくことを念願しております。この時期は人生の基礎作りになり、またこれほど瑞々しい年代もありません。皆さんには、この短期大学を選択したという共通性があります。これまでに学んだ

学問をするとは、真理や知識を探究することとされています。知ことは楽しさばかりか、人生を豊かにしてくれます。北原由夫学長しかしそれらは、自ら切り開いてゆく意思と努力なくしては、成し遂げられないと思ひます。

詩人高村光太郎の第一詩集に『道程』があります。その冒頭は「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」で始まっております。これは西欧の留学から日本に帰り、当時の封建的な社会の中で、これと闘って新しく生きようとする決意を述べた、彼の気迫を示したものですが、これを「自分の未来は、自分で切り開いてゆくこと」と理解し、実践してもよいのではないかと思います。

人真似ではない、自分の生き方こそ大切であり、それを見つけることが勉強の意味でもあります。現在の社会情勢はきわめて混沌としております。景気も、なお不透明な世の中であります。このような時代こそ、きちんと判断し、自律して行動できるようにしなければならぬと思ひます。学問することは、それら判断の基礎を作ってくれます。特に十八歳の年頃は最も悩み多い年代であります。だからこそ、独りで迷ったり悩んだりせずに、目的を共有する学友と語り合い、経験のある先輩や知識を持った教師と相談しつつ、よりよい未来を探してゆくことが、特に重要だと思ひます。

我々教員はそれを期待し、皆さんの力になりたいと思っております。短い期間ですが、夫々の未来を真剣に探す、大切な時期です。二年後には多くの方が成人になられます。その折、皆さんがさらに自律して未来に希望を抱き、大きく羽ばたくことができますよう、精進していただくことを心からお願いし、入学の告辞といたします。



北原由夫学長



短大入学式(入学生宣誓)

諸報

平成16年度
新生大短639名入学

江戸川大学

第15期生477名が入学

第15回入学式が平成16年4月3日に流山市文化会館で行われ、人間社会学科116名、マス・コミュニケーション学科148名、環境デザイン学科76名、経営社会学科137名が入学しました。

新生を代表し、経営社会学科久保岡真也君は、「学業や部活動、サークル活動に情熱を注ぎ、新しい仲間との出会いを大切に、充実した日々を送りたい」とこれから始まる学生生活に誓いを述べました。



久保岡真也君

江戸川短期大学

第20期生162名が入学

第20回入学式が平成16年4月4日に映像ホールで行われました。

新生を代表し、杉中麻実さんは、「個々の目標を掲げ、教養を受けながら知識を深め、学業や課外活動などに積極的に挑戦していきたい。」と述べ、宣誓しました。



杉中麻実さん

木原先生、牧野先生、鈴木先生に
名誉教授称号授与(大学)

4月14日と5月19日の両日、名誉教授称号授与式が行われました。授



4月14日授与式出席者

されたのは、木原啓吉教授、牧野信彦教授、鈴木儀十郎先生の3名です。



5月19日授与式出席者

名誉教授略歴(敬称略)

木原啓吉



昭和28年東京大学法学部卒業、朝日新聞社編集委員、千葉大学教養学部教授、同大学名誉教授。本学には、平成8年応用社会学科教授として着任、平成9年環境情報学科長に就任し、「ナショナル・トラスト論」「歴史的環境保全論」等の科目を担当。著書に『歴史的環境 保存と再生』(岩波新書)、『ナショナル・トラスト』(三省堂刊)等。

牧野信彦



昭和28年東京大学経済学部卒業後、朝日新聞社論説委員、昭和63年同社社友。本学には開学と同時にマス・コミュニケーション学科

助教授として着任、「新聞論」「文章表現」等の科目を担当。平成5年教授に昇任。著書に、『軋む情報化経済』(朝日新聞社刊)等。

鈴木儀十郎



昭和27年法政大学法学部卒業、中・高校教諭、江戸川女子高等学校副校長、江戸川大学総合福祉専門学校長、江戸川女子短期大学副学長を経て、江戸川大学開学と同時に副学長に就任。教授としても「視聴覚教育」「視聴覚方法論」等の科目を担当。

『創造への原点』『海を渡る安寿と弥生』等のオリジナル脚本多数執筆。

平成16年度科学研究費補助金交付
5件、内定!(大学)

科学研究費補助金は、国が学術振興を目的とし、大学等の研究者・グループが計画する基礎的研究のうち、ピア・レビューにより学術研究の動向に即して、特に重要なものを取り上げ研究費の助成をするものです。

基盤研究(B)に、大内田鶴子助教授「英国・日本における古書店街の比較社会学的研究 まちづくり思想の相違について」、基盤研究(C)に、小田一郎助教授「膜の世界における局在化に関する研究」、森島済助教授「フィリピンにおける溜池農業水利用の安定化に向けた流域環境解析」、阿南透助教授「近代の都市祭礼の成立と変容 近代祭礼史の試み」、若手研究(B)に、安田英士助教授「日本企業における研究開発のグローバル化」の計5件が内定しました。

(参考)基盤研究とは、1人で行う研究又は複数の研究者が共同で行う独創的・先駆的な研究で、申請総額によりA・B・Cに区分されます。若手研究とは、37歳以下の研究者が一人で行う研究で、申請総額によりA・Bに区分されます。

「NPO教育ビデオ」制作プロジェクト
マスコミ学生が活躍!(大学)

NPO支援センターちばの「若い人たちへの情報発信を強化したい」というニーズと、江戸川大学マスコミ学科の学生たちの「社会での実践学習の場がほしい」というニーズがマッチングし、平成15年度文部科学省生涯学習まちづくり支援事業として、昨年9月から共同でビデオ教材の制作が始まり、今年3月完成しました。このビデオのタイトルは「Style」、NPOという「場」、「道具」が「実は生活の一部になっていた」という、若者6人の

それぞれの"スタイル"を紹介するもの。大学などへの出前授業などで教材として使われています。同センターによると、レベルが高く、飽きさせない内容で、ビデオを見た人からは「NPOを身近に感じた」「機会があったらやってみたい」などの反応があり満足しているとのこと。制作メンバー9名のリーダーマスコミ3年生太田陽介君は、「人の気持ちとこんなにも向き合った半年は今までなかった。制作メンバー内での共有意識、取材者の人となりを伝える責任、ビデオを観る人達はどんな事を考えるのか、など、色々な人達の気持ちに揉まれて、物事を考える幅が広がった。」と充実した表情。アドバイザーの朝倉教授は、「NPOと大学の持つ、知的・人的資源を提供し合えば、お互いのニーズや共通の利益を実現することができる一つの例で、今回のことは知的・人的資源の循環構造モデルの良い提案となった」と話しています。



制作メンバー(一番手前真中が太田君)

学内放送始まる!(大学) 情報バラエティ番組「さんQ」

4月から活動が始まった、特ゼミ(映像制作特別実習)をご存知でしょうか? マスコミ学科の佐々木教授が指揮を取り、放送番組の制作実習を行うゼミです。特ゼミは、ゼミとしての顔の他に、放送局としての顔を持ち、放送局を模して第1制作部、第2制作部、報道部、アナウンス部、技術部という組織構成になっています。

この番組のキャスターを務める里村好美さんは1年生。高校時代有名放送部で鍛えあげた彼女の実力は、まだ入学して3ヶ月とは思えないほど。

アナウンスは初めてなのでコーナーをいかに生かすキャスティングができるか手探り中と話してくれました。特ゼミの主力は35名の1年生、6月2日から始まったばかり。



里村好美さん

これからの成長が楽しみです。皆さん、応援して下さい。

○放送期間 前期は7月7日まで
後期は9月29日から

放送時間 毎週水曜日
12時30分～13時

○視聴場所 E棟学生ホール

○番組構成 大学内のニュース、教員を紹介する「研究室探訪」、学生のための「生活情報」、「就活のノウハウ」、「朗読」、「ミニドキュメント」、「ミニドラマ」、「大学からのお知らせ」など。

流山市公民館と本学共催広報づくり教室 好評に終わる(大学)

流山市公民館の大学開放講座は、公民館と大学が連携し、大学の特色を生かした専門的な学習を提供し、地域社会の教育の充実を図ることを目的に実施されています。

昨年に引き続きマスコミ学科が主体となり、「広報づくり講座」を開催しました。この講座は実践的にノウハウを修得できるように、久保教授と剣持教授が講義を担当し、パソコン実習指導をLAN基幹センターの伊藤さんと谷川さんが担当しました。

6月5日からの毎週土曜日の5日間、30代から70代後半までの幅広い年齢層から34名が参加しました。年配の方はパソコンの操作に苦労していましたが、設備の整った教室で学習できた、具体的な技術指導がありわかりやすかった、一般的なワープロソフト(MS Word)で質の高い広報誌が自分で作れた、スキルアップになったなどの感想が多く、受講生は出来上がった広報誌を手にとり満足げでした。

歩いた、歩いた、21.3km! 江戸川ウォーク(大学)

平成16年4月30日(金)に新入生同士や先生方との親睦を図る「江戸川ウォーク」がおこなわれました。

5回目を迎えた今回は、江戸川大学を出発して寅さん記念館のある柴又公園までの約21,3キロメートルを380名の学生と教職員が歩きました。

当日は晴天に恵まれ江戸川の土手沿いを爽やかな風が吹き抜けるウォーキング日和の中、第一チェックポイントでは流山勇太鼓会が太鼓演奏で新入生を応援し、ゴール地点では新撰組「誠饅頭」が配られるなど地域文化と触れ合う江戸川ウォークとなりました。

距離が長いことで教員や学生などの参加者相互の距離が開いてしまいコミュニケーションがうまくとれず、一体感に欠ける部分も見られました。また、長い距離を歩きなれない現代の若者には忍耐も必要となったようですが、ゴールした学生の顔は充実感と満足感で満たされていました。



流山勇太鼓会の応援

第10回三大学学友会運動競技会 野球で、優勝!(大学)

6月19日(土)晴天のなか、東洋学園大学、日本橋学館大学、本学の3校の学友会が学生間の友好を深めることを目的として、運動競技大会を開催しました。

主要競技は、サッカー、バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン、剣道、野球の7種目でした。会場は、3校で分担し、野球のみ江戸川河川敷で行われました。

自由参加ができるドッチボールな

どの競技は参加者が少なく、盛り上がりかけました。しかし、主要競技では選手たちは日頃の練習結果を出し合い、本学は野球で優勝しました。総合では東洋学園大学の圧勝となりました。競技会の後に設けられた「後夜祭(通称:宴)」は、3校の学生たちが好敵手を見つけては話に盛り上がり、大学同士の親睦を深めるとてもよい機会となりました。



選手宣誓する三校代表

オープンキャンパスと 高校教員対象説明会(大学)

6月26日(土)の天気は快晴で、新緑あふれるキャンパスに、74名の高校生が来場しました。在学学生が高校生の案内役を務め、学科ごとに設けたブースでは、教員の説明に熱心に耳を傾ける高校生の姿があちこちで見られました。



教員の説明を熱心に聞く高校生

また、高校教員対象「平成17年度入試・高大連携についての説明会」には近隣の高校22校から23名の先生方に参加いただきました。

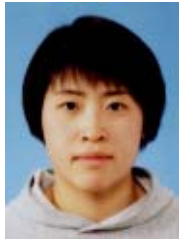
プログラムは本学を多角的に捉えていただけるよう設定されており、学科紹介では、学科長の説明の後、学生代表が学生生活の体験や実績等を通して本学の魅力を語り、拍手が沸きました。

その他、研究所紹介や高大連携に

対する提案、名刺交換会等を通し、近隣高校と本学との距離がより一層近くに感じられる説明会となりました。

卒業生の活躍(大学) 門馬結さん、日本一!

Japan Cup第26回全日本軽量級選手権競漕会女子舵手つきクオドルプルで門馬結さん(2003年度卒業生)が優勝!



門馬結さん(入学当時)

門馬さんは、卒業後中部電力に就職し、ボート部に所属しています。第26回全日本軽量級選手権大会の7月4日に行われた決勝戦では、2位の鹿屋体育大学に22秒の大差で優勝しました。

この大会は2005年世界ボート選手権リハーサル大会に位置付けられており、門馬さんは次は世界に挑戦したいと抱負を語りました。そもそもわが国で最初にボートが漕がれたのは、慶応の年代から明治に移り近代化の波が押し寄せようとした時代に遡るといわれています。当初は未知のスポーツと取り組み、幾多の苦難の道を辿りながら、今日ようやく世界の水準に近づき、世界の仲間入りができるようになったと言われており、門馬さんにはその一翼を担う選手になってほしいものです。



練習中の門馬結さん

ちなみに、ボート競技は一定の距離で速さを競うものですが、オリンピックをはじめとする国際大会は、すべて2000mで行います。軽量級種目では、艇の種類を問わず、ユニフォームを含む漕手の体重制限を設けてい

ます。ちなみに、男女とも規定の体重に満たない場合は、最大限10kgの負荷重量をおかねばなりません。

フレッシュマンキャンプ(短大) 新入生との交流深まる

フレッシュマンキャンプが、4月8日から10日まで奥日光高原ホテルで行われました。昨年度はコースごとに行われましたが、今年度は新入生全員参加の統一プランで実施されました。

このキャンプには、学生リーダー11名も参加し、全体会・相談会・新入生歓迎パーティーを中心となって進めました。学生リーダーの山口香織さんは「今年度は新入生全員での実施だったため、いかに他コースの学生同志が交流し合える場と雰囲気を作るかという点に、特に心を砕きました。」とのこと。



時間割作成中

初日の全体会では、学内施設・クラブ紹介の際にパワーポイントを用い、新入生がより理解しやすいよう工夫していました。また、毎夜行われた相談会では、新入生の時間割作成やこれからの学生生活に対する相談に、学生リーダーも応対し、新入生との交流がはられました。



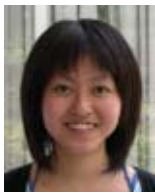
歓迎パーティ、ゲーム中

新入生歓迎パーティーのアトラクションでは、交流を深めるという

点を重視し、自分の持つカードと同じ絵柄を持っている人を探す、というマッチングゲームが行われました。全学生が積極的に参加してくれ、歓迎パーティーにふさわしい盛り上がりとなりました。

二泊三日の寝食を、新しく出来た友人や教員と共にする中で、新入学生も短大生としての自覚を得て、視野を広げることができたようです。

**千葉日報学生歌壇最優秀賞受賞！
2年生鈴木裕香さん(短大)**



2年生鈴木裕香さんが、平成15年「千葉日報読者文芸」の学生歌壇部門で最優秀賞を見事を受賞しました。

鈴木裕香さん 千葉日報「読者文芸」とは、毎月2回読者が寄せる俳句・川柳・短歌・詩の中から選ばれた作品が掲載されるコーナーです。最優秀賞は、1年間の掲載された作品の中から選ばれます。受賞された鈴木さんは、高校生のとき本学の短歌講座を受講したのがきっかけで短歌を詠むようになり、先生等の意見を聞くことで少しずつ「自分らしい短歌」を作ることができるようになったと話しています。以下、受賞作品。

玄関にそっとおいてあるお弁当
母の温もり毎朝かみしめ

**第13回全国高校放送コンクール
募集始まる(大学)**

今回のコンクールは、部門を4部門から3部門に再編成し、各部門の参加条件を分かりやすくしました。

審査員にフリーアナウンサーの斎藤弘美先生、NHK職員の伊集院礼子先生を招くほか、特別賞に『まちづくり賞』を新たに設けて、コンクールの審査とは違った視点からの評価を増やしました。

入賞作品については、本学学園祭(11月3日)での発表会を予定しており、各部門とも最優秀高校の代表者

を招待します。一部入賞作品は、コアラテレビその他のCATVでローカル放送するほか、インターネットを通して公開する予定です。

応募締切10月5日 審査発表10月末



デザインはLANセンター伊藤さん

**第14回全国高校生韻文コンテスト
募集始まる(短大)**

このコンテストに参加する高校は年々増えています。昨年は、北海道から沖縄まで126校の参加があり、約6割が初参加でした。また、参加者数は2700人を超え、とりわけ俳句部門には、参加者数の約半分1425人も高校生が参加しており、俳句に対する人気の高さが窺えます。

各高校の参加者数は一人から160人以上の団体までと様々です。参加にあたっては各高校でとりまとめることになっていますので、このコンテストにご参加いただいた高校の先生方の教育に対する熱意を感じずにはられません。

応募締切9月17日 審査発表1月初旬



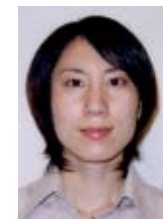
デザインはLANセンター谷川さん

**エクステンションセンター
2度目の学問しませんか？**

4月開講講座もまもなく終了となります。以前からの公開講座受講生の割合も多く、中には旅行のお土産をご持参くださったたり、差し入れして下さる方もおられます。本学に親しみを持ってくださっている方も多いとうれしく感じるセンターの船出となりました。

受講生は、現役サラリーマンから会社経営者、OL、主婦、ご年配の方まで、講座によって様々です。会社帰りに受講している方もおり、皆さん大変熱心です。一般の方と一緒に受講している本学学生にとっては、一般受講生との会話などが良い刺激になっているのではないのでしょうか？

7月から新たな講座が始まります。キャッチフレーズは「二度目の学問しませんか?」。柏教室では短大も加わり4講座、駒木キャンパスではコンピュータ実習室を使用して3講座を開講します。



ウチヤマカズヒデさん

柏教室で開催される「楽しい中国語会話」は、本学(短大)の留学生で中国人のウジェティンさんが講師。

ウジェティンさんは、中国で師範学校を卒業し、小学校で音楽と社会(地理・歴史・常識)の先生をした経験があります。

現在、日本に来て4年目ですが、日本語をすっかりマスターしています。卒業後は日本で就職したいと、本学で英語を勉強中の彼女はまだ23歳。子供の頃から、「夢をあきらめそうになると、夢が実現したところを具体的にイメージしてみる」そうです。そんなウジェティンさんに中国語を教わったら、楽しそうですね。「中国語は漢字で意味が分かるので、発音をマスターすれば扉が開ける。」と明るい笑顔で話してくれました。夏休みを利用した週2回の集中講座です。

詳しいご案内は同センターまで。

少しでも利用者の方が使いやすい資料整理・図書館づくりを目指していきたいと思っております。

山本 愛子
(やまもと あいこ)
目録・装備

1日も早く仕事に慣れて快適な利用空間を作りたいと思っています。

前田 潮子
(まえだ しおこ)
ILL・雑誌

図書館で雑誌、ILL(他の図書館との相互利用に関する業務)を担当いたします。他大学等から文献や図書を取り寄せますので、どうぞ図書館をご利用ください。趣味：水泳、読書

小澤 智子
(おざわ ともこ)
ILL・雑誌

企業資料室での司書経験しかなく、大学図書館は初めてなので、要領を得ないところがあるかと思いますが、早く慣れて、利用者の方々に満足してもらえるようなサービスを提供できるように頑張ります！

7月からの座席表

カウンター

山本 (518)		前田 (517)	小澤
-------------	--	-------------	----

	高木 (513)	池嶋 (515)	富川
--	-------------	-------------	----

源 (512)		大嶋 (511)	
------------	--	-------------	--

--	--	--	--

()内は内線番号

夏休み期間中
学内工事のお知らせ

D棟入口付近とE棟掲示板裏の舗装工事(法人本部)

D棟入口付近の通路は、降雨時に大きな水溜りができて歩行を妨げているため、舗装をやり直します。

また、E棟掲示板の前に通路はありますが、舗装されていない裏側を通る学生がいます。そのため、降雨時には講義棟の中が泥まみれになっているので、舗装することになりました。工事は、8月4日(水)から約1週間行いますので、付近を通行する際はご注意ください。併せて、水はけをよくするためにC棟前とD棟付近の排水溝を清掃します。

グラウンドの照明設備設置工事(学務課)

グラウンドの照明設備を設置する工事を8月から9月中旬にかけて行います。グラウンドは、幅95メートル、奥行55メートルの大きさがあります。照明ポールは、側面に4つずつ設置します。高さは10メートルで、1台に6個ついている投光器がグラウンドを照らします。投光器1個は1KW水銀灯で、全体(48個)としてはサッカーなどの運動をするのに適した明るさとなります。

現在は照明設備がないために、日が暮れると部活もできない状態にあります。設置されますとグラウンド全体が照らされ、安全に活動することができるようになります。

平成15年度江戸川学園
決算報告(法人本部)

5月26日に開催された、評議員会ならびに理事会において、当学園の平成15年度決算が承認されました。つきましては、当学園全体、ならびに大学、短大について、「貸借対照表(学園全体のみ)消費収支計算書要約、資金収支計算書要約」を掲載いたします。

平成15年度決算については、消

費収支計算書により決算概要を説明いたします。

まず、収入面では、収入の大半を占める学生生徒納付金について、大学、江戸川女子高校、取手中学校の3校で増加し、短大、江戸川女子中学校、取手高校、専門学校の4校では減少したものの、当学園全体では、5,762百万円、対前年比では73百万円の増加となりました。また補助金収入につきましても、大学、短大において、大幅に増加したことから、全体では、1,225百万円、対前年比91百万円の増加となり、その結果、帰属収入全体としては、7,526百万円、対前年比254百万円の増加となっております。

一方、支出面につきましても、人件費が3,520百万円、対前年比28百万円の増加となり、また教育研究経費につきましても、大学のサテライト教室開設等から賃借料、減価償却費などが増加し、全体では、1,825百万円、対前年比では16百万円の増加となりました。このため、消費支出全体としましても、総額で5,940百万円、対前年比28百万円のコスト増となりました。

また、基本金組入につきましても、当年度は新たに2号基本金として、大学で講堂建設に関して800百万円、女子中・高校も将来の講堂、体育館に向けて、200百万円、合計1,000百万円を設定したことから、全体では、1,377百万円の基本金組入となりました。

この結果、帰属収入から基本金組入と消費支出を差し引いた当年度の消費収支差額は、209百万円の収入超過となりました。

平成16年度についても、少子化の一段の進行から、環境面はさらに厳しくなることが予想されます。つきましては、資産の効率的活用、ならびに経費の削減に一層注力しつつ、教育研究環境については、今後の為にも拡充を図っていく予定です。皆様方のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。

貸借対照表(江戸川学園全体)
平成16年3月31日

〔資産の部〕		〔負債の部〕	
固定資産	23,993	固定負債	657
有形固定資産	21,935	長期借入金	0
土地	3,741	退職給与引当金	657
建物	15,304	流動負債	1,687
構築物	556	未払金	84
教育研究用機器備品	1,333	前受金	1,307
その他の機器備品	84	預り金	17
図書	860	修学旅行費等預り金	279
車両	4	負債の部 合計	2,344
建設仮勘定	53	基本金の部	
その他の固定資産	2,058	第1号基本金	29,355
借地権	802	第2号基本金	1,000
電話加入権	6	第3号基本金	174
施設利用権	4	第4号基本金	389
差入保証金	62	基本金の部 合計	30,918
退職給付引当特定預金	10	消費収支差額の部	
第2号基本金引当金	1,000	翌年度繰越消費収入超過額	2,342
第3号基本金引当金	174	消費収支差額の部 合計	2,342
流動資産	11,611	負債の部・基本金の部及び	
現金預金	11,118	消費収支差額の部 合計	35,604
未収入金	172		
修学旅行費等預り金	279		
前払金	31		
前渡金	5		
仮払金	6		
資産の部 合計	35,604		

消費収支決算書要約(江戸川学園全体)

(単位:百万円)

〔消費収入の部〕			〔消費支出の部〕		
	比率			比率	
学生生徒等納付金	5,762	76.6%	人件費	3,521	59.3%
手数料	118	1.6%	教育研究経費	1,825	30.7%
寄付金	172	2.3%	(内減価償却額)	745	12.5%
補助金	1,225	16.3%	管理経費	574	9.7%
その他の収入	249	3.3%	(内減価償却額)	64	1.1%
帰属収入 合計(A)	7,526	100.0%	その他の経費	20	0.3%
基本金組入額	1,377		消費支出 合計(C)	5,940	100.0%
消費収入の部 合計(B)	6,149		当期収支差額(B-C)	209	
			前年度繰越消費収入超過額	2,133	
			翌年度繰越消費収入超過額	2,342	

資金収支決算書要約(江戸川学園全体)

(単位:百万円)

〔収入の部〕		〔支出の部〕	
学生生徒等納付金収入	5,762	人件費	3,512
手数料収入	118	教育研究経費支出	1,072
寄付金収入	74	管理経費支出	506
補助金収入	1,225	借入金等返済支出	6
資産運用収入	12	施設関係支出	102
事業収入	90	設備関係支出	240
雑収入	146	資産運用支出	1,000
前受金収入	1,307	その他の支出	135
その他の収入	205	資金支出調整勘定	63
資金収入調整勘定	1,509	次年度繰越支払資金	11,119
前年度繰越支払資金	10,199		
収入の部 合計	17,629	支出の部 合計	17,629

消費収支決算書要約(江戸川大学)

(単位:百万円)

〔消費収入の部〕			〔消費支出の部〕		
		比率			比率
学生生徒等納付金	2,270	89.7%	人件費	1,013	54.1%
手数料	25	1.0%	教育研究経費	706	37.7%
寄付金	18	0.7%	(内減価償却額)	194	10.4%
補助金	191	7.5%	管理経費	140	7.5%
その他の収入	26	1.0%	(内減価償却額)	31	1.7%
帰属収入 合計(A)	2,530	100.0%	その他の経費	12	0.6%
基本金組入額	961		消費支出合計(C)	1,871	100.0%
消費収入の部合計(B)	1,569		当期収支差額(B-C)	302	

資金収支決算書要約(江戸川大学)

(単位:百万円)

〔収入の部〕			〔支出の部〕		
学生生徒等納付金収入	2,270		人件費	1,000	
手数料収入	25		教育研究経費支出	511	
寄付金収入	10		管理経費支出	109	
補助金収入	191		借入金等返済支出	0	
資産運用収入	1		施設関係支出	47	
事業収入	3		設備関係支出	121	
雑収入	22		資産運用支出	800	
前受金収入	422		その他の支出	55	
その他の収入	69		資金支出調整勘定	24	
資金収入調整勘定	519		次年度繰越支払資金	2,995	
前年度繰越支払資金	3,124		内部振替	4	
収入の部 合計	5,618		支出の部 合計	5,618	

消費収支決算書要約(江戸川短期大学)

(単位:百万円)

〔消費収入の部〕			〔消費支出の部〕		
		比率			比率
学生生徒等納付金	450	81.2%	人件費	240	48.3%
手数料	6	1.1%	教育研究経費	204	41.0%
寄付金	5	0.9%	(内減価償却額)	64	12.9%
補助金	88	15.9%	管理経費	50	10.1%
その他の収入	5	0.9%	(内減価償却額)	9	1.8%
帰属収入 合計(A)	554	100.0%	その他の経費	3	0.6%
基本金組入額	45		消費支出合計(C)	497	100.0%
消費収入の部合計(B)	509		当期収支差額(B-C)	12	

資金収支決算書要約(江戸川短期大学)

(単位:百万円)

〔収入の部〕			〔支出の部〕		
学生生徒等納付金収入	450		人件費	238	
手数料収入	6		教育研究経費支出	139	
寄付金収入	2		管理経費支出	41	
補助金収入	88		借入金等返済支出	0	
資産運用収入	0		施設関係支出	27	
事業収入	2		設備関係支出	29	
雑収入	3		資産運用支出	0	
前受金収入	141		その他の支出	8	
その他の収入	5		資金支出調整勘定	5	
資金収入調整勘定	164		次年度繰越支払資金	1,605	
前年度繰越支払資金	1,554		内部振替	5	
収入の部 合計	2,087		支出の部 合計	2,087	

役職者就任挨拶

前号に引き続き、役職者の就任挨拶を掲載します。

江戸川大学・江戸川短期大学

○語学教育研究所長 市川 昌

江戸川大学は、建学以来国際化と情報化に対応する人材育成を重視してきました。語学教育研究所規程には、「語学教育を研究し、大学および短大の語学教育を統一的行うため研究所を置く」とされています。本学では海外研修としてニュージーランド、オーストラリアの大学で生きた英語を学び、異文化学習を実施しています。高校における文法、単語などの基礎的知識が不足している学生もいますが、国際的なコミュニケーション能力の必要性を体感し、総合的な語学力充実への動機づけになって欲しいと願っています。学生の多様化が進むなかで、総合英語の徹底、CALLによる個別学習、異文化学習との協調など指導力向上のため教育研究を進めたいと思います。

江戸川大学

○情報環境研究所長 向仲 顯

情報環境研究所の目標は、情報技術を用いて学生によりよい教育を提供することと、学生が社会に出て実務にすぐに役立つ実践的な情報技術を習得する教育を行うことです。情報環境研究所が設立されて3年目になりますが、第1の目標を達成するために、マルチメディアを利用した教材作成の研究、e - ラーニングの研究、

授業支援システムの研究などを行ってきました。今後は、具体的な科目で、これらの技術が応用されてよりよい教育が実現されるよう、学内講習会の実施、LMSの導入など環境の整備を行って行きたいと考えています。第2の目標を達成するために、情報テストによるスキル別クラス分けの実施、コンピュータ化の推進者に関する資格の取得推進を行ってきましたが、必ずしも成果を上げてきたとはいえないので、資格の範囲を広げて、より実務的な、オフィスやマルチメディアソフトを使いこなすことに関する資格の取得推進も行っていきたいと考えています。

○スポーツビジネス研究所長 茅野廣行

4月に新設されたスポーツビジネス研究所の所長に任命されました。私は経営学の人事管理が専門であり、スポーツを通じた人材育成に関心を持っています。また、チームスポーツのマネジメントは企業のマネジメントに限りなく近いと言えます。このようにスポーツと大学で教える専門分野の間には、経営学はもとより、社会学、マスコミュニケーション、心理学、環境学と様々な関わりを発見することができます。「スポーツは文化」であり、したがって人間の営みにかかわるテーマと深くかかわっているのは当然のことです。スポーツ好きの学生が江戸川大学に集まり、スポーツを通して楽しく、積極的に学ぶという環境を作りたいと考えています。

新設の研究所に皆様のご支援をお願いいたします。

江戸川大学・江戸川短期大学語学教育研究所教員一覧

	教授	助教授	非常勤講師	
語学教育研究所	市川昌 ^マ	秋葉和子 ^マ	城一道子	D. A. Hooper
	加藤忠明 ^マ	松村豊子 ^経	宋 仁善	L. A. Hausman
	斉藤喜久志 ^人	海老澤邦江 ^タ	園田一恵	L. S. Veno-Kan
	長谷川公一 ^マ	木内英太 ^タ	福田有美	
	近藤益世 ^タ	T. M. Kelly ^タ	文 鐘蓮	
	原田昌明 ^タ	R. R. BAER ^タ		

江戸川大学各研究所教員一覧

	教授	助教授	所員	非常勤講師
情報環境研究所	向仲顯 ^環	石田義明 ^人		上杉智子
		小田一郎 ^経		矢城堅二郎
		詹萍 ^環		
		高田正之 ^人		
スポーツビジネス研究所	茅野廣行 ^経	小林至 ^経	古城庸夫 ^学	守屋志保
	北原憲彦 郡司俊雄		鈴木秀生 ^学	

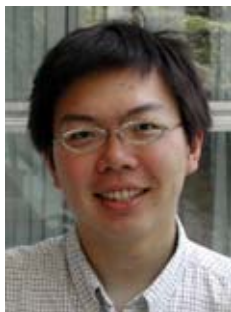
所長

人：人間社会学科からの併任者
マ：マスコミュニケーション学科からの併任者
環：環境デザイン学科からの併任者
経：経営社会学科からの併任者
学：学生部スタッフからの併任者
タ：短大からの併任者

学生団体の紹介

学友会執行部の仕事は、大学側との調整や外部との交渉、企画運営など多岐にわたります。しかし、学生生活を日頃サポートしている、彼らの活動は表にはなかなか現れません。このコーナーでは、そんな縁の下の力持ちの学生団体を紹介していきます。

大学学友会長 勝井秀太(2年)



学友会執行部は、執行委員会、クラブ幹事会体育局(加盟20団体)、クラブ幹事会文芸局(加盟12団体)、学園祭実行委員会、卒業記念委員会で構成されています。執行委員会は、これらの組織を取りまとめています。

昨年は、その他に献血への積極的な参加の呼びかけ、学生食堂「江戸屋」の座席数増加のためのリニューアルなどの活動をしました。しかし、学友会に興味をもたない一般学生が多く、学生総会を開催しても意見が出てきません。私は執行部主導で進んでいることに問題を感じています。中学、高校と「学生の先頭に立つのは、他の誰かがやるから別に僕じゃなくてもいい。」と書いていたが、そんな考えでは社会に影響を与えることは出来ないと思い、学友会長に立候補しました。

今年度の目標は、一般学生の学友会に対する認知度を上げ、積極的に意見を出してもらえる環境を作ることです。本当に学生が求めていることを実現可能にしていく学友会にしたいと思います。

短大学友会長 山口香織(2年)



私たち江戸川短期大学学友会執行部は、11名で活動しています。主な活動は、新入学生全員参加のフレッシュマンキャンプの引率、クラブの管理、新入学生歓迎パーティー・オープンキャンパス・卒業記念パーティーなどを、中心となって運営していくことです。

そのなかでも、新入学生歓迎パーティー・オープンキャンパス・卒業記念パーティーといった行事は、私たちの企画や運営次第で良いものにも悪いものにもなります。学生が思い切り楽しめるようなイベントの企画を、11名で思考錯誤しながら考えています。アイデアが出ずに苦労することが多いのですが、先生方や学友たちにも意見を聞き、私たち自身楽しみながら企画をたて、運営しています。

江戸川学園駒木キャンパスは、同じ敷地内に大学と短大、専門学校があり、11月2日・3日の学園祭は三校合同で行われます。この学園祭で、短大の学生が大学・専門学校の学生とより深い交流を持てるよう、私たち学友会執行部も手助けしていきたいと思っています。

今回は、学園祭実行委員会を紹介します。



江戸川大学・江戸川短期大学・江戸川大学総合福祉専門学校の三校合同学園祭実行委員会の皆さん

キャンパスの雰囲気も落ち着きを取り戻し、暑い夏が訪れようとしています。学報に掲載した行事の写真は、新井正彦助教授にご提供いただいています。先生は開学以来、行事毎に写真を撮りアルバムを作り保存してこられました。事務局にもありますので利用されたい方はどうぞ。K・K

江戸川大学・江戸川短期大学学報第15号

平成16年7月1日発行

編集・発行 江戸川大学・江戸川短期大学事務局総務課

〒270-0198 千葉県流山市駒木474 TEL.04-7152-0661(代)